

2019年1月16日(水)
農林水産政策研究所セミナー



農林水産省における国際再生可能エネルギー機関(IRENA)関連施策について

農林水産政策研究所
林 岳

これまでの農林水産省のIRENA関連施策

任意拠出金

- 食料供給と両立したバイオマス生産可能性調査事業(2011～2013年度)
- 食料供給と両立したバイオマス生産の導入推進調査事業(2014～2015年度)
- アフリカにおける食料及びエネルギー供給の両立拡大システム普及支援事業(2016～2017年度)
 - 対象地域:アフリカ諸国
- 持続可能なバイオエネルギー生産のためのバイオマス戦略事業(2018～2019年度)
 - 対象地域:アジア諸国

委託事業

- 国際連携による気候変動適応・緩和技術の開発(2013～2017年度)
 - 対象地域:アフリカ諸国

農林水産省 IRENA任意拠出金

“アフリカにおける食料及びエネルギー供給 の両立拡大システム普及支援事業”

- 政策目的

- 食料供給と両立する持続可能なバイオマス利活用システムをIRENAが普及を目指す途上国等のバイオエネルギー・システムに導入

- 事業目的

- 食料供給と両立する日本型バイオマス利活用システムをアフリカへ普及するため、調査分析及びワークショップの開催等により途上国等の関係者のキャパシティ・ビルディング支援を実施

- 実施期間（拠出金）

- 2016年度（1,000万円）、2017年度（800万円）

アフリカにおける食料及びエネルギー供給の両立拡大システム普及支援事業

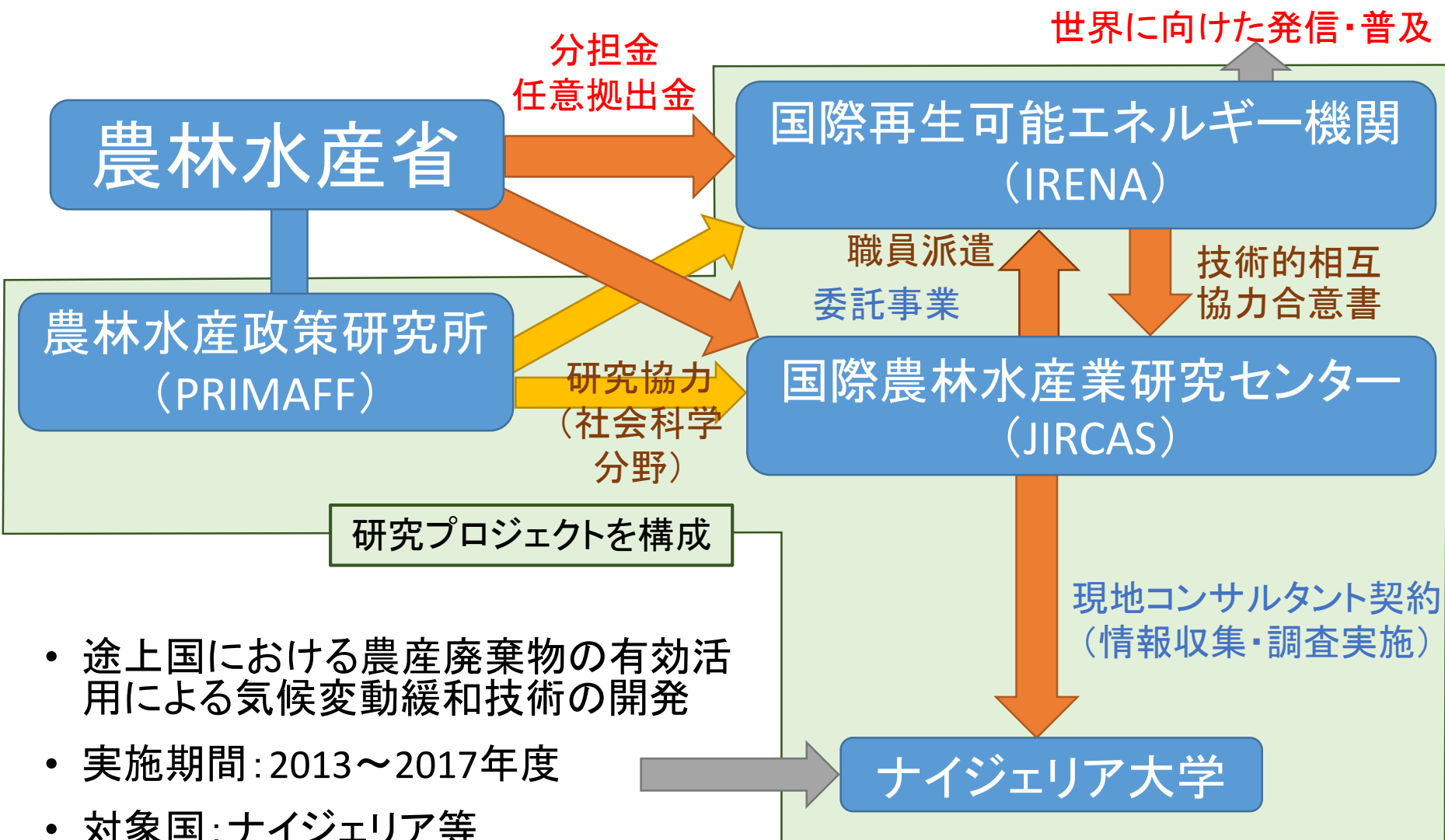
- 我が国にとっての事業効果・成果
 - 食料等の生産から消費の間に発生するバイオマスエネルギー等に有効に活用する日本型バイオマス利活用システムが拡大すれば、日本の技術、製品の国際展開につながる
 - アフリカにおいて日本型バイオマス利活用システムが普及されることで、同地域の食料の安全保障と栄養確保にもつながり、アフリカ開発会議(TICAD)プロセスにも貢献
 - IRENAと連携し、食料供給と両立する日本型バイオマス利活用システムを世界のスタンダードにすることで、我が国の食料安保に貢献

農林水産技術会議委託事業

“国際連携による気候変動適応・緩和 技術の開発”

- 気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のためのプロジェクト
 - 研究課題名：「途上国における農産廃棄物の有効活用による気候変動緩和技術の開発（2013～2017年度）」
 - 研究機関名：（独）国際農林水産業研究センター（JIRCAS）
 - 研究代表者：主任研究員 村田善則

我が国のIRENAのバイオエネルギー 関連業務支援施策における研究体制



本セミナーでの報告内容

- ジェームス・オボンナ氏(ナイジェリア大学)
 - 「ナイジェリアのバイオエネルギー生産の現状と見通し：IRENAプロジェクトからの教訓」
- 井上泰子氏(森林総合研究所・元IRENAイノベーションテクノロジーセンター)
 - 「IRENA共同研究プロジェクトの成果ーサブサハラアフリカ農村におけるバイオエネルギー解決策」
- 村田善則氏(国際農林水産業研究センター)
 - 「農産廃棄物のキャッサバ残渣を高度に利用するためのナイジェリア酵母の開発」
- 林岳(農林水産政策研究所)
 - 「バイオエネルギーの持続可能性評価へのステークホルダー意見の反映ツールーナイジェリアでの試行的適用ー」